

令和7年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	23	学校名	掛川特別支援学校御前崎分校	記載者	木本 恭嗣
------	----	-----	---------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア 専門性	(ア)教育的ニーズの的確な実態把握と目標の達成	・「学習の個性化・指導の個別化による個別最適な学習に積極的に取り組んだ」と答える教職員 100%	A	A	年間指導計画をきちんと作って学習に当たっていることがすごいと感じた。
	(イ)つながりのある支援と指導の充実	・「生徒の身に付けた知識や経験を社会で生かすことができるような授業や指導を実施した」と答える教職員 90%以上	B	B	農福連携はどのように考えているか、の質問に対し、農園芸班の生徒の中で適していると思われる生徒もいると回答。
		・「障害による学習上又は生活上の困難さを改善・克服する視点で ICT や教材を活用することができた」と答える教職員 80%	B	B	PC入力の文章よりも手紙を書くことが好きだが、手書きをしないと漢字を忘れてしまうのではないか。
イ 安全・安心	(ア)人権に配慮した言動や行動の徹底	・「生徒の特性を理解し、状況の変化に対応できるように個別に支援ができた」と答える教職員 100% (自立活動)	B	B	特に意見なし
		・相手を尊重し、学校生活の決まりを守って生活することができた」と答える生徒 90%以上 (いじめゼロ生徒会活動)	A	A	特に意見なし (生徒アンケートの提示)
	(イ)命を守る、体制の整備と緊急時対応の行動力強化	・「緊急時の自己の役割を認識し、適切な行動ができる」と答える教職員 100%	B	B	特に意見なし
		・「想定される危険を回避するために家庭でも話し合っている」と答える生徒・保護者 80%以上	C	B	B評価で良いのではないか。 (生徒C評価、保護者B評価)

様式第5号

ウ 連 携	(ア)よりよく生きるための関係機関等との協働強化	・「保護者との指導内容の共有、関係機関との情報交換、必要に応じた支援会議など必要に応じた外部との連携を積極的に行った」と答える教職員 90%	A	A	すべてを学校任せにするのではなく、保護者が外部の人たちと積極的に情報交換をする必要性を感じる。(令和8年度はPTA研修会を実施した)
	(イ)地域資源(人・もの・こと)への深い理解とそれを活かした実践や発信	・「販売会や地域作業を生徒の夢の実現に向けた目標を達成することにつながることができた」と答える教職員 100%	B	B	特に意見なし
		・生徒及び生徒の学習活動、作業製品等を通して池新田高校や地域の方が「分校及び生徒の理解につながった」と答える教職員・外部評価 100%	A	A	特に意見なし (御前崎市大産業まつりにて販売会の実状を見ていただいた)
エ チ ーム	(ア)働きがいのある職場の充実	・「担当業務を通じて、満足感や達成感、有用感を得ることができた」と答える教職員 100% *業務改善に関しては、随時、学年主任者会で話し合う。	B	B	業務削減のために議事録などの作成は生成AIを活用して業務改善を図っている。